



式辞

理事長 **佐野 尚見**

皆様 おはようございます。

本日は ご多用中のところ 松下政経塾卒塾式にご出席頂き誠にありがとうございます。また 日頃より当塾の運営に対しまして 格別のご支援・ご指導を賜り重ねてお礼申し上げます。

さて 晴れてこの日を迎えられた塾生諸君 改めてご卒塾おめでとうございます。

諸君は 本日までの4年間 塾での研究研修の中で あるいは厳しい現場実習を通じて 漠然としていた入塾時の思いを自らのライフワークとすべく より確かな"志"にまで高めてこられました。多くの皆様のご指導を頂いたとはいえ決して平坦な道ではなかったはずです。

自ら立てた「かくあるべし」という仮説と 実際の現場とのギャップに悩み苦しんだ事も多かったことでしょう。しかしぶれることなく 本日ここまで頑張ってくられた諸君に対し 心から敬意を表します。

昭和54年(1979)、当塾を創設された塾主松下幸之助は「国家百年の大計を創り それを実践し実現する若者を育てたい」と有為な青年たちに ご自分の夢と日本の未来を託されました。塾主 84才の時であります。

塾主が画かれたあるべき国家像は「国徳国家」の実現であり 「繁栄による世界の平和と人類の幸せ」の実現というものであります。

又 少し歴史をさかのぼりますと 昭和7年(1933)5月5日 当時の松下電器の全従業員を集め 松下電器の使命は『水道の水の如く 生産につぐ生産をもって 生活物資を供給し 貧乏を克服し この世に楽土を建設することである』とも述べておられます。塾主 37才の時であります。

後程 卒塾生ひとりひとりから皆様に感謝の気持ちを込めた『決意表明』があろうかと存じますが ここで私からも紹介をさせていただきます。

岡田吉弘君は この4年間 「ものづくり」というカテゴリーの中でロボットに焦点を当て 様々な研修現場や研究機関に足を運び その道のプロと議論を重ねてきました。そして まちがいなく到来する 新しい情報社会・・・政府はそれを Society5.0 と位置付けていますが、人工知能やビッグデータ つなげる I o T・活用するロボット ブロックチェーン等が組み合わせられ 一部人間の能力を超えるという これら新しい社会の仕組みに対し 人間が如何にイニシアティブを取り 如何なる形で共存し 人類の繁栄に結び付けてゆかか。とりわけ ロボットと人間とのかわり方について 見識を深めてきています。

もうひとつ入塾にあたり 彼が心を痛めていた事は 地方の疲弊であります。





岡田君は広島県三原市の出身で 卒塾後は当然の如く 三原市に戻り 来たるべき新しい情報社会を念頭に ロボットをひとつの教材にして 将来を担う地域の子供たちの育成に取り組もうとしています。

三原から新しい産業を興す為に まずは人づくりという極く基本的なところからスタートした岡田君を楽しみに見守ってゆきたいと考えています。

木村誠一郎君は 国家存続の根幹にかかわるエネルギー問題に取り組んでまいりました。

日本は 十分なエネルギー資源を持たないエネルギー輸入国である。たしかに 原油価格の高騰が 極めて敏感に日本の貿易収支に 反映される程 経済に大きな影響を与えています。

国家百年の安泰の為に エネルギーの安定確保が絶対条件であり、まだ日本では活用が十分でない自然エネルギーを最大限引き出し 実用化しようとしています。

彼は 長崎県の五島列島に 家族とともに居を移し 地域の皆様のご協力を頂きながら 豊かな海と風を利用した自然エネルギーの実証実験を続け 更に施設の永続性を確保する為に メンテナンス技術の普及向上に取り組んでいます。そして 2040 年代には 日本はエネルギー輸出国として 世界の繁栄と平和に貢献できると 彼の夢は更に大きくふくらんでいくはずで。

山本将君は 母子家庭で育ち 多感な時代を貧しさの中で過ごしています。しかし 山本君は 自ら育ってきた環境を極めて前向きにとらえています。「自分はむしろ幸せだった」と。それは「教育熱心な母親といつも励まし続けてくれた姉と素晴らしい先生や多くの友人に恵まれていたからです」と述べています。

そしてある体験から 彼の気持ちに大きな変化が起きることになります。それは、『ひとり親家庭』の学習支援に参加した時と聞いています。その現場に入り 自分には 貧しくとも 暖かい環境があった。果たして この『ひとり親家庭』の子供達には 自分のように周囲から頂いた暖かいサポートがあるのだろうか。

さらに この子供達に対して『自分の力で立ち上がれ』という 今の社会のあり方で良いのだろうか。その思いを胸に入塾してこられました。

彼は政経塾で多くの事を学び 多くの現場を体験し そして、今、大阪の箕面市で より一層厳しい生活環境にある子供達の為に『日本財団 子供の貧困対策プロジェクト』で現場の責任者として地域拠点の立ち上げを一任され 活動を推進しています。子供達が貧困の連鎖を立ち切り、自らの生き抜く力を育てるために。

私は この4年間 山本君の顔が 会う度にいい顔になってきたなあ と感じています。「もともとハンサムですよ」とある女性からは聞いていましたが。

次に 会場の皆様には いまひとつこの3名同様 門出を祝い 励まして頂きたい 卒塾生がいます。

松下政経塾の研修期間は 4年間ですが 2年間以上の基礎課程を終えて早期修了を望む塾生に対しては 厳格な審査を経た上で 卒塾を認めています。

以下 これらの3名につきましても 私からもひとこと。



まず 小林達矢君です。

彼が生まれ育った 長野県もまた 善光寺など 一部の地区を除いて 次第に元気が失われ 地域経営の 喫緊の課題になっています。

小林君は 当塾で学びつつ 日本の各地に足を運び 地域経営の実例を学んできました。彼は 長野市において それらの体験を生かし 自治体経営改革のひとつの手法として 市民同士が対話をしながら 地域のあるべき姿を求めてゆく「対話型財政シミュレーションゲーム (S I M)」を長野市民 学生や行政の皆様にも提案し 数多く実施してきました。

今 彼は 確かな手応え感じつつ 長野市の「市民協同サポートセンター」のコーディネーターとして 新しい町づくりの第一歩を踏み出したところです。

二人目は渡邊典喜君です。地元栃木県宇都宮市で政治活動に入っています。

彼は 大学を卒業後 バックパッカー風に見聞した後、中央アジアの大使館で勤務をしてきました。在学中は ベーシックインカム・シェアリングエコノミーといった 新しい経済社会の仕組みを 国内外で研究し 大きなビジョンを描く一方で 現地現場での実践にも励みました。

特に 不幸にして発生した熊本大震災では 同期の塾生と共に いち早く駆けつけ ボランティアを行いその後 一年をかけて彼がリーダーとなって 被災地の小規模事業者の再建に関する提言をまとめました。志実現の暁には 人間味のある面白い政治家が生まれるはず と期待しています。

最後の一人は 津曲陽子君です。

塾主松下幸之助は 昭和 28 年 (1953) 日本は 観光立国たるべしと 日本と日本人のもつ素晴らしさを 積極的に世界に発信すべきと 述べておられます。

75 年経った今 津曲さんは この塾主の考えを 自らの理念とし グローバル視点で 新しい形の 地域活性化をテーマに取り組んでいます。

その原点は イタリアでの体験にありました。

彼女は 長く滞在していた イタリアの小さな村の人達が 村の資産を生かしつつ 誇り高く生活している姿に感銘を受け 日本でもその様な形の地域活性化ができるはず・・・と。

彼女は今 同じ理念を持ち 活動を続けている『日本で最も美しい村連合』の専門職員として 志実現の為に スタート台に立っているところです。

さて 諸君の歩み出そうとしている道は 一本一本違う道ではありますが 松下幸之助が思い描かれた『国徳国家』の実現への道に しっかりとつながっていることを誇りに思い 時代が求める人材ではなく 時代を変革する人材 新しい時代を創る人材になって頂きたい。

本日は 日頃からお世話になっております多くの皆様にご出席を頂いています。

本日 卒塾をしてゆく 6 名は いずれも地域にしっかりと根をおろし 活動を続けてゆく覚悟ですが いずれ政治の道へ進むかも知れません。どうかこれから巣立っていく卒塾生に対し 大きなエールを送って頂きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが 皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げ 私のご挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。